桜美林大学駅伝部

NEWSLETTER

2026 10

特別号

箱根駅伝予選会まで、いよいよ残りわずかとなりました。
このたび、エントリーメンバーの発表に合わせ、予選会に向けた特別号を配信いたします。

箱根駅伝予選会エントリーメンバー

第103回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会に向け、エントリーメンバー16名が決定しました。
内訳は、4年生4名、3年生4名、2年生3名、1年生5名。4学年それぞれの選手が選出され、この16名が桜美林大学駅伝部の代表として予選会に臨みます。



４年 伊藤光輝



４年 三海渚



４年 塩﨑滉大



４年村上隼梧



３年 清水倭



３年 馬場航汰



３年 丸橋世尚



３年 山内日向汰



２年 小河真朗



２年 玉木美偉智



２年 伯野颯太



１年 井野真志



１年 城尾太陽



１年 ダウニング隆太エイダン



１年 三田大夢



１年 矢島佑樹

エントリーメンバー選出

16名のエントリー、その後ろに

10月17日、桜美林大学駅伝部は箱根駅伝出場を懸け、第103回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会に挑みます。

予選会に向けた練習を重ねる日々。その練習の終わり、監督からエントリー候補選手たちに伝えられた言葉がありました。
「君たちの後ろは誰もいない」
その言葉の背景には、予選会に向けて歩んできたチームの時間があります。

昨年の予選会、桜美林大学の順位は23位。チーム総合記録は10時間52分18秒。チーム史上最高タイムを更新しました。
昨年のエントリーメンバーは、4年生7名、3年生3名、2年生2名、1年生2名。半数を4年生が占めていました。昨年の先輩たちが卒業した今、今年は新たなメンバーで予選会に挑みます。

昨年の結果を超えることは、決して簡単なことではありません。それでも、これまでのチームが積み重ねてきたものを受け継ぎながら、今年のメンバーにしかできない戦いがあります。
思うように練習を積めない時期を過ごした選手もいました。それぞれが異なる状況と向き合いながら、自分にできることを積み重ね、チームとして予選会を迎えるための日々を過ごしてきました。



「君たちの後ろは誰もいない」
この言葉には、予選会を任される選手たちへの期待や、背負う責任の重さが込められていたのかもしれません。

監督とコーチが、選手一人ひとりの状態やこれまでの取り組みなどを総合的に判断し、選んだ16名のエントリーメンバー。

しかし、予選会当日に走ることができるのは、その16名の中から選ばれる12名。そして、チームの結果を決めるのは、出走した12名のうち上位10名の合計タイムです。
エントリーメンバーに選ばれることも、当日走る12名に選ばれることも、決して当たり前ではありません。

選手39名、マネジメント7名、ブランディング6名、トレーナー5名。部員57名に、部長、総監督、監督、コーチを加えた61名で、私たちはこの予選会に向かっています。
日々の練習で共に走る選手たち。練習や試合のサポートを担うマネジメント。チームの魅力や選手たちの姿を届けるブランディング。選手の身体と向き合うトレーナー。そして、チームを導くスタッフ。それぞれの役割は違っても、目指しているものは同じです。

共に練習を重ね、声を掛け合い、苦しい時間を乗り越えてきた仲間がいる。一人ひとりが積み重ねてきた日々は、エントリーの有無や当日の出走にかかわらず、このチームを形づくっています。

もちろん、予選会で結果を残すためには、実際に走る選手たちの力が必要です。彼らが背負う責任の重さも、走ることのできる喜びも、ほかの誰かが代わることはできません。
それでも、選手たちがスタートラインに立つまでには、多くの仲間の存在があります。共に練習に励み、日々の取り組みを支え、同じ目標に向かって歩んできた仲間がいるからこそ、このチームの挑戦があります。

選ばれた選手だけがチームをつくっているのではなく、走る選手だけがこの予選会を戦っているのでもない。一人ひとりが自分の役割を果たしながら、一つの目標に向かって進んできました。
16名のエントリー選手。その後ろにいるのは、45名の桜美林大学駅伝部部員たち。



第103回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会まで、あとわずか。

これまで積み重ねてきた日々を胸に、桜美林大学駅伝部はチーム一丸となって予選会に挑みます。